諸外国地理カリキュラムにみる「持続性」に関わる地理的概念

吉田　剛*

キーワード：「学習の内容的側面」と「学習の方法的側面」，「地理的概念活用」型，授業構成システム，ESD

Ⅰ．はじめに

地理教育は，持続可能な社会形成に向け，防災，多様性，人類遺産，共存共生，地域存続などの現代的な課題についてさらに目を向け，それらの様々な地理的認識を深めながら，市民的資質を高める意義がある。本稿は，次期学習指導要領においてもESDとして強調され，市民的資質に関わりやすいサスティナビリティに関わる地理的概念（以後，「持続性」）の扱いに焦点を当てる。

世界的な教育潮流は，コンピテンシー重視の方向にあり，我が国もその方向にある[1]。地理教育においても，コンピテンシー重視のカリキュラム・マネジメントや授業実践に向けて考える時期にある。コンピテンシー重視の地理カリキュラムには，地理的探究における発問と，それに応えるアクティブ・ラーニングにおける地理的概念や地理的技能の活用などが重要である。

とくに地理的概念について[2]，近年，吉田(2016)[3]は，中学校学習指導要領社会編地理的分野について，「学習の内容的側面」と「学習の方法的側面」に機能する地理的概念から分析を行い，カリキュラムにおける地理的概念の特性を明確にしている。また，吉田・管野(2016)[4]は，オーストラリアにおけるNSW州と連邦の地理カリキュラムに関する分析から，現地聞き取り調査による検証も踏まえ，「学習の内容的側面」と「学習の方法的側面」に機能する地理的概念の体系や意義について検討・考察している。これらから，地理的概念の機能は，先行研究において両側面が一括・融合して捉えられている場合が多かったものの，明らかになりつつある。

次期学習指導要領[5]においても，社会的事象などをみる観点として，「学習の方法的側面」に機能する地理的概念として，地理学の五大テーマとなる地理的概念の活用が示されている[6]。この先を考える上で，先行する諸外国地理カリキュラムの動向を検討し，我が国に示唆を得ようとすることも必要である。そこで本稿は，とくに「持続性」に着目し，諸外国地理カリキュラムにおける地理的概念の扱い方についての比較・検討を行い，コンピテンシー重視の地理カリキュラムのモデルや授業構成システムについて提案することを目的とする。

方法・手順は，諸外国地理教育カリキュラムにおける地理的概念を比較し，類型化する。また，我が国中学校地理カリキュラムの課題を検討した上で，コンピテンシー重視の地理教育カリキュラムのモデルや授業構成システムを開発し，提案する。分析対象とする諸外国地理教育カリキュラムは，我が国も含めた次の七つとす

* 宮城教育大学

る。○アメリカ合衆国地理ナショナル・スタンダード1994年版（米地理1994年版）[7]，○イギリス・ナショナルカリキュラム地理2007年版（英地理2007年版）[8]，○オーストラリア・ナショナルカリキュラム地理2013年版（豪地理2013年版）[9]，○香港地理カリキュラム2010（現2011）年版（香港地理2010年版）[10]，○シンガポール中学校低学年地理シラバス2014年版（シンガポール地理2014年版）[11]，○中国地理カリキュラム2011年版（中国地理2011年版）[12]，○日本中学校社会科地理カリキュラム2008年版[13]。

Ⅱ．諸外国地理教育カリキュラムにおける地理的概念

1．米地理1994年版

米地理1994年版の構成は，教科内容となる「空間の世界」「場所と地域」「自然システム」「人文システム」「環境と社会」「地理の実用」による六つのエレメント（①～⑱のスタンダード項目），地理的スキルそして地理的パースペクティブ（空間的な見方と生態学的な見方）による三つのより糸からなる。六つのエレメントは，地理学の五大テーマに基づくとされ，主要な地理的概念である。とくにエレメント後半部の「環境と社会」は，⑭人間と自然（人間活動の自然環境への働きかけ），⑮自然と人文（自然システムの人文システムへの影響），⑯資源（意味・利用・分布・重要性の変化）の項目を内包し，「地理の実用」は，⑰過去の解釈，⑱現在の解釈と未来の設計の項目を内包する。これらから，「環境と社会」は，「学習の内容的側面」に機能する「環境」が中心となり，「地理の実用」は，「学習の方法的側面」に機能する「変化」が関わる。例えば「持続性」は，これら二つの相互補完によって見いだせる。

2．英地理2007年版

英地理2007年版では，「場所」「空間」「スケール」「場所の相互依存」「自然的・人文的プロセス」「環境の相互作用と持続可能な開発」「文化の理解と多様性」の六つの地理的概念が示されている。各々には，概ね二つの項目が内包されている。ただしその内容は，「学習の内容的側面」と「学習の方法的側面」，地理的概念と地理的スキルなどの意味が混在するため，それらの機能を詳細に分析することはできない。とくに英地理1999年版「知識理解」項目のうちの「環境変容と持続可能な発展」に関連する，英地理2007年版の「環境の相互作用と持続可能な開発」には，次の二つの項目がみられる。

a. 環境の自然地理的人文地理的な要素が相互に関係し，また環境の変化とともに影響し合っていることを理解すること。
b. 持続可能な開発とそれの環境の相互作用や気候の変化に与える影響について調査すること。

これらには「持続性」が中心となり，前者は主に「学習の内容的側面」に，後者は主に「学習の方法的側面」に機能すると考えられる。同様に，「文化の理解と多様性」も資質の育成に関わる次の二つの項目がみられる。

a. 社会や経済の理解を特徴付ける，人々や場所の間，環境間，異なる文化間の違いや類似点を正しく理解すること。
b. どのような人々の価値観や態度が異なり，また社会や環境，経済，政治的問題に影響を及ぼし，それらの問題に対する彼ら自身の価値観や態度が形成されているのかを正しく理解すること。

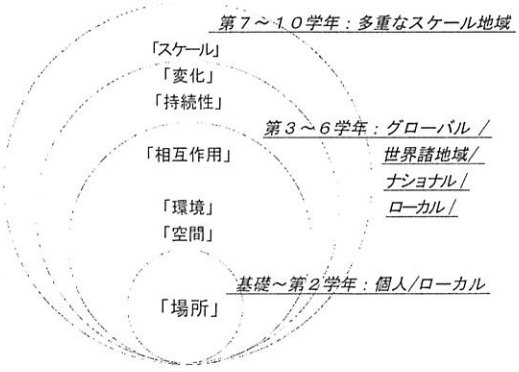
このような「文化の理解と多様性」も「持続性」に含めてみることができる。

3．豪地理2013年版

豪地理2013年版は，世界の場所・人々・文化・環境への興味関心の発達，ローカルからグローバル規模の地理的理解の発達，地理的思考力，地理的概念の活用力の発達，地理的探究・

技能の批判的・創造的な活用力の発達そして持続的な社会発展に寄与する責任のある市民性の発達などがねらいとなる。その構成は，総則，構造，地理的理解・発達のための地理的概念，基礎学年と第一～十学年の学習内容，生徒の多様性，汎用的能力などの順に示されている。冒頭では，地理学習における地理的概念の活用に関わる記述が強調されている。

地理的概念の系統は，各学年段階において焦点（学習テーマ）と併せて上位に示されている。第１図より，基礎学年と第一・第二学年で，「場所」「空間」「環境」に重点が置かれ，第二学年で「相互作用」が加わる。第三から第六学年で，「持続発展」「変化」が加わり，第七から第十学年で，全ての空間規模から関連・理解させるための応用的な「スケール」が説明されている。「スケール」は，基礎学年と第一から第十学年まで一貫して意識され，学習対象に応じて弾力的な運用が示されている。「場所」は，地理空間に学習者の目線に最も親和性のある概念となり，他の概念との関連性が示され，初期の学習段階の基本となる。「場所」「空間」「環境」は概念全体の基礎となり，それらを関連付ける「相互関係」，さらに「持続性」「変化」は，「環境」を中心に時間軸から発展的に考えさせる資質の育成に関わる。このような地理的



第１図　オーストラリア地理カリキュラム 2013 年版の地理的概念の序列階層性
（筆者作成）

概念の系統は，米地理2014年版や英地理2007年版の構造と類似する。ただし豪地理2013年版では，発問や地理的スキルなどとの関係が具体的な内容を持って，より構造的に示されている。その背景には，カリキュラム全体の「汎用的能力」によって地理的概念や地理的探究・技能などの体系化が促されたことが窺える。

４．香港地理2010年版

香港地理2010年版には，「一般目標」のほかに，「知識理解目標」「地理的思考目標」「地理的技能目標」「価値態度目標」の四つの目標がある。さらにそれらに関連付けられた「本質的な学習要素」は，知識理解・技能・価値態度の三つから示されている。吉田（2013）によれば，とくに「知識理解目標」の五項目は，「空間」「場所」「地域」「人間環境の相互作用」「持続発展」「地球的相互依存関係」の地理的概念に対応する内容となる。さらに細かくは「本質的な学習要素」の十五項目に関連付けられている。第１表より，全単元には，地域的な課題を中心に多重な地域規模（香港，中国，アジア太平洋，地球）の事例地域が環境拡大的に取り上げられている。進め方は，香港を基に地球規模の事例地域へと繋げられ，大きくはA～C部門によって進む。A部門単元では，香港の身近な地域とその発展に中国や世界の各地域が取り上げられ，幅広い地域規模の地理的事象が対象になっている。また抽象度の高い「空間」「場所」の地理的概念との関わりが示されている。B部門単元では，中国の主題的な学習を基に世界各地の事例地域が取り上げられ，「人間環境の相互作用」「地域」の地理的概念との関わりが示されている。C部門単元では，グローバルな企業展開や地球環境問題などが取り上げられ，高次な地球的課題やシティズンシップ育成などの価値態度や資質の育成に関連する「地球的相互依存関係」「持続発展」の地理的概念との関わりが示されている。

地理的概念をみると，「知識理解目標」より

第1表　香港中学校地理カリキュラム2010年版の単元の内容構成　吉田(2013)より一部改変

部門	地域規模*	地理的概念	地域的課題	
			必修単元	選択単元（各部門で一つ選択）
A 主に香港	L ↓ N ↓ R ↓ G	「空間」「場所」	賢い都市空間の利用－持続発展的な都市環境を維持可能か ■ N:広州・天津，R:ソウル，G:ヘルシンキ	観光－友人か敵対者か ■ N:マカオ（歴史館），R:タイ（島と浜辺），G:ブラジル（アマゾン）
			自然の危険－他より良く整えられるか ■ N:台湾・四川・甘粛，R:フィリピン・インドネシア・インド，G:アメリカ合衆国・ニュージーランド・中央アメリカ	気候変動、環境変化 ■ N:中国（暴風雪），R:ツバル（海水面上昇），G:極地方（氷河の溶解）
B 主に中国	N ↓ R ↓ G	「地域」「人間環境の相互作用」	食糧問題－私たちは食べていけるか ■ R:北朝鮮・カンボジア　G:サヘル	人口問題－ちょうど良い人数は ■ R:日本・インド　G:ドイツ・ナイジェリア
			水の心配－多すぎる少なすぎる ■ R:シンガポール・バングラディシュ，G:イギリス	砂漠を弱める－砂漠化と砂嵐に抵抗する長く続く戦い ■ R:オーストラリア，G:サハラ
C 主にアジア太平洋	R ↓ G	「地球的相互依存関係」「持続発展」	製造業の地球的な移動－機会と脅威 ■ G:広東・イギリス・五大湖	疾病地理－広がる危険に直面する ■ G:インフルエンザ（例に鳥豚）・エイズ・結核
			エネルギーの奪い合い ■ G:イギリス(風力)・中国(水力)・ブラジル(バイオ)	不安な大洋 ■ G:南シナ海・北海・地中海

＊ L:香港，N:中国(国内)，R:アジア太平洋(域内)，G:地球。■:各単元で取り上げられている事例地域。

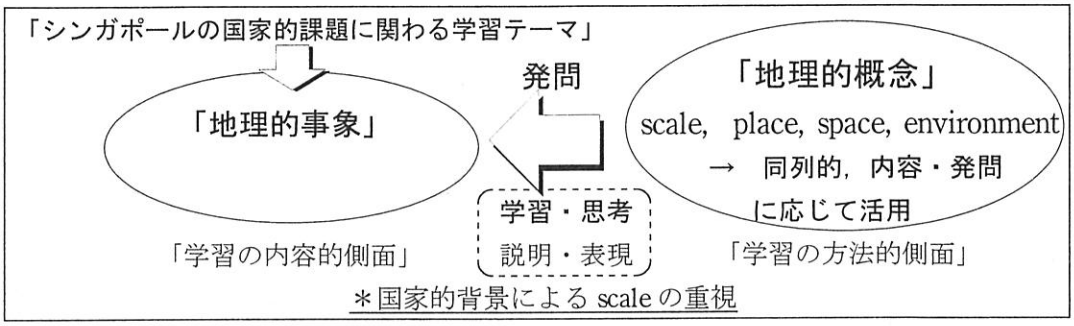
関連付けられているため，大半は「学習の内容的側面」に機能する地理的概念とみなせる。ただし，「空間」「持続性」に関連する「本質的な学習要素」をみると，発問形式の文脈の中にそれらの概念の活用が指示されている。そこで「空間」「持続性」は，主に「学習の方法的側面」に機能する地理的概念とみなせる。これら六つの地理的概念には，序列階層性がみられる。「空間」「場所」は，主に地理的事象の把握のための基礎的な観点となり，「地域」「人間環境の相互作用」は，主に地理的事象の思考のための観点，「持続発展」「地球的相互依存関係」は，主に価値態度や資質の育成の観点とみなせる。本稿で着目する「持続性」は，「持続発展」と「地球的相互依存関係」が相当し，前者は「学習の方法的側面」に，後者は「学習の内容的側面」に機能するものに分けられる。発問が意識されるためか，「学習の方法的側面」に機能する「持続発展」は，前出に位置付けられている。

5．シンガポール地理2014年版

シンガポール教育には，2000年以降，「国民教育」(National Education) による帰属性を重視する潮流がある。さらに近年では，21世紀型コンピテンシーに基づくDOE (Desired Outcomes of Education) の理念的背景（公正な判断力をもつ人間，自律的学習者，行動的貢献者，確かな社会的国民）などが強調されている。地理カリキュラムには，シンガポール地理2014年版である中学校低学年 (Lower Secondary) 地理シラバス（2年制）と，中学校高学年 (Upper Secondary) 地理シラバス（2年制）がある。いずれも地理的概念の活用が見込まれている（第2表）。前者は同列にある「場所」「空間」「環境」が，全般的な「スケール」に関わるように意図されている。後者は，英地理2007年版に類似する序列階層的な「空間」「場所」「スケール」

第2表　シンガポール地理カリキュラムにみる地理的基本概念（筆者作成）

Lower Secondary: Place(場所), Space(空間), Environment(環境), Scale(前3概念に係る)
Upper Secondary: Space, Place, Scale, Physical and Human Prosses(自然的人文的プロセス), Environmental and Cultural Diversity(環境的文化的多様性), Interdependence(相互依存)



第2図　シンガポール中学校低学年地理2014年版における地理的事象と地理的概念の関係（筆者作成）

「自然的・人文的なプロセス」「環境的・文化的な多様性」「相互依存」などがあげられ，それらの活用が明確に示されている（第2図）。いずれも「スケール」は重視されている。ただし豪地理2013年版とは異なり，各スケールに内在するシンガポールの国家的課題が重要となり，吉田（2011）が指摘する国家的価値の意図に繋がる。さらにシンガポール地理2014年版をみると，知識理解目標には，地理的概念の知識の発達が記述されている。また，「Issue-based Framework」をとり，その中の発問では，地理的概念からの説明や表現が求められている。シンガポール地理2014年版では，「持続性」に関わる概念を直接見いだせないが，シンガポールの社会問題を重視した地理学習としてみると，「環境」が中心となり，「持続性」に関わる資質の育成がカリキュラム全体に求められている。

6．中国地理2011年版

中国地理（中学校）2011年版の概要については，(1)「理念」をみると，生活・地球地図，世界・中国・郷土地理，生涯学習・価値態度（「持続性」に関わる部分有），教材開発・学習環境・学習方法の充実などが示されている。(2)「目標」をみると，「知識技能」では，地球地図の基礎知識，自然と人間，地域差，郷土・中国・世界の関係，環境・社会問題，地図・地理情報・調査等の技能などが示されている。「学習方法」では，思考過程，概念活用・分析判断，問題解決，表現・交流などが示されている。そして「情意態度価値観」では，興味関心，郷土・国家愛，世界の伝統文化民族の尊重一体感，持続発展・防災・環境保護・行動などが示されている。(3)「内容」をみると，地球・地図，世界地理（海洋陸地・気候・居住・地域発展の差異・認識地域：一つの大州/四つの地域/五つの国家の選択で全大州に及ぶ），中国地理（国土人口・自然環境・自然資源・経済文化・地域的差異・認識地域：必修〈北京・台湾・香港・マカオ〉，選択〈五つの規模の異なる地域〉），郷土地理が示されている。(4)「構造」をみると，スキル育成，系統地理的理解，選択式地誌（世界諸地域・国内），郷土調査からな

る。とくに中国地誌は，地理的概念の活用が理念的に説明されている（「位置分布」・「関係と差異」・「環境と発展」）。

以上から，「持続性」に関わる主な記述には，(1)「理念」の価値態度や，(2)「目標」の「情意態度価値観」における持続発展・防災・環境保護・行動，(4)「構造」の地理的概念の活用における「環境と発展」などがみられる。全般的には，現代的な中国の環境問題への意識化のためか，「環境」を中心に，環境問題・環境開発・環境保全・持続発展の文脈が所々にみられ，「持続性」が求められている。

Ⅲ. 地理的概念からみる地理カリキュラムの三つの類型

以上の諸外国地理教育カリキュラムにおける地理的概念の特徴から，吉田・管野（2016）による地理的概念の機能からみる地理教育カリキュラムの二つの類型（「トップダウン」型と「ボトムアップ」型）（第3表）をもとに，新たに類型化してみると，大きく「トップダウン」型，「ボトムアップ」型，現代的な「地理的概念活用重視」型の三つが考えられる（第3図）[14]。

コンピテンシー重視の「地理的概念活用重視」型については，隣接する豪地理2013年版とシンガポール地理2013年版が概ね該当する。両者には，コンピテンシーに関わる汎用的能力の育成が明確に求められている背景がある。吉田・管野（2016）によれば，豪地理2013年版は，「トップダウン」型（米英型）ともいえるが，シンガポール地理2014年版と同様に，「学習の方法的側面」に機能する地理的概念がより明確に示されている点でやや異なる。他方で，香港2010年版は，英地理2007年版と同様な地理的概念が学習内容に関連付けられているが，両側面に関する機能は明確に示されていない。本稿では，香港2010年版が多重な地域規模の枠組みから学習内容が構成されていることもあるため，「ボトムアップ」型（東アジア型）に近いものとみなした。コンピテンシーに関わる地理的概念の活用は，現代的な地理カリキュラムを分析するための重要な視点となる。そして「地理的概念活用」型は，今後の我が国における地理的な見方や考え方の在り方に示唆を与えてくれる。

第3表　地理的概念の機能からみる地理カリキュラムの二つの類型（筆者作成）

型	「学習の内容的側面」	「学習の方法的側面」
トップダウン（TD）	地理カリキュラム全体（全単元）の内容構成において，地理的概念（あるいはそれを中心とする内容のまとまり）は，明示的なねらい・テーマとなって機能する。そのトップダウンによって，下位の地理的事象とその意味・意義が構成され，主題的・系統地理的な内容のまとまり自体も重くみられる。そのため，様々な地域規模で仕切る環境拡大（縮小）的構成の枠組みを一律に意図しない。	地理的概念は，学習・思考の際に，観点となって活用される。また，「学習の内容的側面」におけるトップダウンの特徴とともに，カリキュラム冒頭部で学習・思考のための観点ともある地理的概念が構造的・明示的に示される。
ボトムアップ（BU）	地理カリキュラム全体の内容構成の中心に地理的概念が明示的に機能するよりも，様々な地域規模で大きく仕切る環境拡大（縮小）的構成の枠組みの方が中心的な規範となる。その中で様々な地理的事象とその意味・意義の知識理解を通したボトムアップによって，暗示的に機能する地理的概念の知識理解に迫る。	地理的概念は学習・思考の際に，観点となって活用される。また，「学習の内容的側面」におけるボトムアップの特徴とともに，カリキュラム冒頭部で学習・思考のための観点ともある地理的概念が理念的・暗示的に示される。

「トップダウン」型(TD)
（米英型）

「地理的概念活用重視」型
（資質能力育成型）

「ボトムアップ」型(BU)
（東アジア型）

段階*	米スタンダード1994年版	英 2007年版	影響	豪 2013年版	シンガポール2014年版***	香港2010年版	中国2011年版**	台湾(小中)2008年版**	日本(平成20)2008年版**
Ⅰ	○空間の世界 ○場所と地域	○場所 ○空間 ○スケール		○場所 ○空間 ○環境	スケール ↓ 多重 スケール ○場所 ○空間 ○環境	○空間 ○場所	○位置と分布	○場所と空間 ○環境の理解	○空間
Ⅱ	○自然システム ○人文システム	○場所の相互依存 ○自然的・人文的プロセス		○相互関係		○人間環境の相互作用 ○地域	○関係と差異	○地域・環境の差異と原因	○環境 ○地域 ○景観 ○分布 ○立地
Ⅲ	○環境と社会 ○地理の実用	○環境の相互作用と持続可能な開発 ○文化の理解と多様性		○持続発展 ○変化		○持続発展 ○地球的相互依存関係	○環境と発展	○地域・環境の問題解決(保護・改善)	○地域(課題/未来)

近接性
← 北アメリカ・ヨーロッパ → ← オセアニア・東南アジア→ ← ――――東アジア――――――――→
←――――――――英国の関係圏域――――――――→
←―― 中国の関係圏域――→

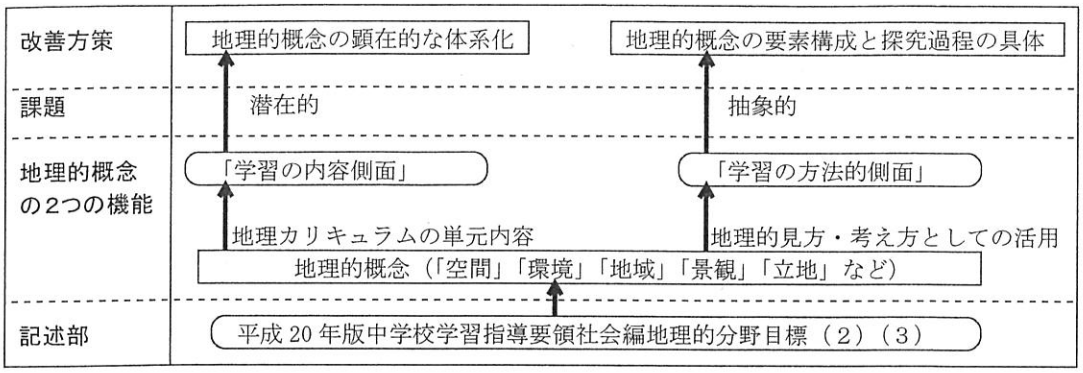
* 地理的基本概念の序列階層性。
Ⅰ:主に地理的事象の把握（地理的思考の基礎）のためのもの。
Ⅱ:主に地理的事象の因果関係などの意味に関わる思考のためのもの。
Ⅲ:主に価値態度形成に繋がる地域的課題の解決に関わるためのもの。ESD「持続性」概念に関わる。
** 「学習の方法的側面」の文脈より意味を抽出（我が国の場合，地理的な見方や考え方の文脈）。
*** Lower 地理（中学校低学年）。各スケールの地域に含まれる主に国家的価値がⅢの段階に繋がる。
図中の近接性は各国の地理的な位置と歴史的背景による。

第3図 諸外国地理カリキュラムにみる地理的概念の序列階層性と類型（筆者作成）

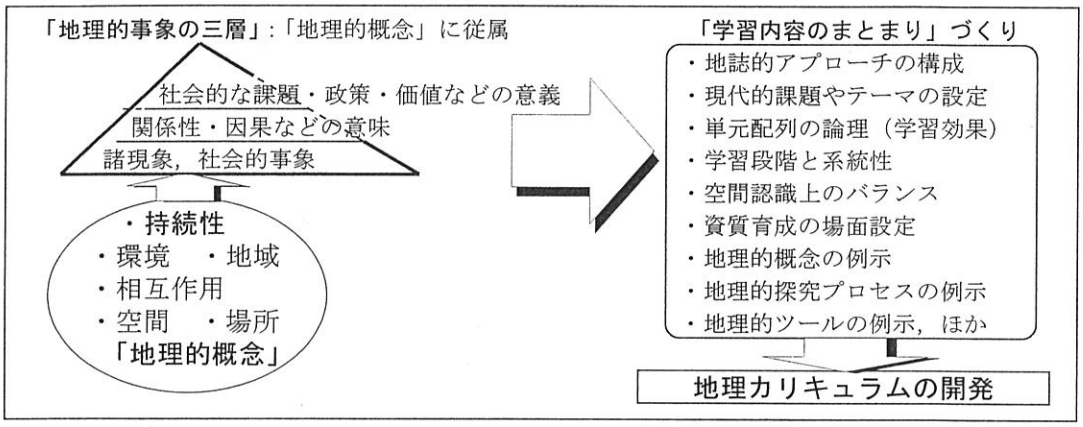
Ⅳ. 日本の中学校地理カリキュラム2008年版の課題と提案

中学校学習指導要領社会科地理的分野目標(2)(3)と地理的見方・考え方に関わる解説の記述より，コンピテンシー重視の地理的概念の理解と活用の深まりに向けて考える。第4図より，「学習の内容的側面」に機能する地理的概念は，単元内容に潜在的に備わるが，その顕在的な体系化が課題といえよう。また，「学習の方法的側面」に機能する地理的概念は，カリキュラム・マネジメントを視野に入れると，「地理的見方・考え方」として未だ抽象的であり，地理的概念の要素構成と追究過程の一層の具体化が課題といえよう。

改善に向けた一案として，第5図のように，学習内容づくりにおける「学習の内容的側面」に機能する地理的概念と地理的事象三層との関係の明確化が必要である。ここでは，地理的概念を地理学の五大テーマとするが，さらに本稿で着目する「持続性」を加えて六つとする。これらは，学習対象となる地理的事象・意味・意義を従属される中心的な役割を担う。そして学習内容のまとまりづくりに向けて，地誌的アプローチなどの構成の在り方や，現代的課題やテーマ設定などの検討を経て，地理教育カリ



第4図　地理的概念の理解とその活用の深まりに関する改善方策（筆者作成）



第5図　学習内容づくりにおける「学習の内容的側面」に機能する地理的概念と地理的事象の関係（筆者作成）

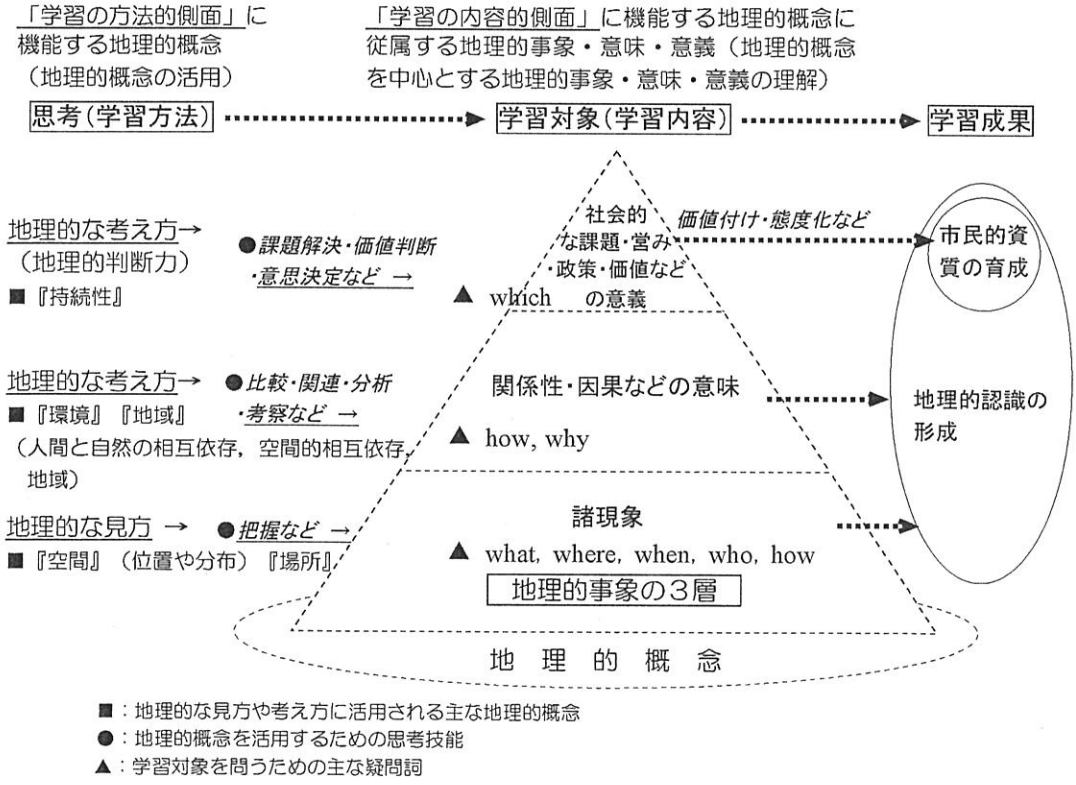
キュラムが開発される。本稿では，地理的概念が地理教育カリキュラムの基底にあり，その上に地理的事象三層があることに留意し，授業構成することによって，地理的概念の理解や活用の深まりを求める。

次に，第6図より，「学習の方法的側面」に機能する地理的概念からみると，地理的見方・考え方を育成する学習展開モデルは，地理的事象，地理的概念，思考などの関係の明示によって考えられる。ここでは，第5図でみる地理的事象三層は学習対象となる。そして，地理的見方・考え方として活用される地理的概念は，学習方法の観点となって学習・思考される役割を担う。その際に，地理的事象三層に応じて，地理的概念を活用するための思考があり，また学習対象を問うための主な疑問詞や句が考えられる。この仕組みによって，右矢印のように地理的認識や市民的資質などの学習成果が得られる。さらに第7図より，学習展開モデルは，とくに「学習の方法的側面」に機能する地理的概念の活用に関する関係を詳細に示す。ここでは，地理的見方，地理的考え方，発展的な地理的考え方に区別して，「学習の方法的側面」に機能する地理的概念が説明されている。

以上について，本稿は，「学習の内容的側面」と「学習の方法的側面」に機能する地理的概念

学習対象 （地理的事象の三層）		学習方法 地理的見方・考え方として活用される主な地理的概念	地理的概念を活用するための思考	学習対象を問うための主な疑問詞/句		学習成果
■諸現象あるいは社会的事象	＋	◎「位置や分布」 ◎「場所」	●把握	what? where? when? who? how?	→	地理的認識の形成
■地理的事象に関わる関係性・因果関係などの意味	＋	◎「人間と自然の相互依存」 ◎「空間的相互依存」 ◎「地域」	●比較・関連 ●分析・考察 など	how? why?	→	
■地理的事象の意味から見いだされた社会的な課題・政策・価値などの意義	＋	◎「地域」 ↓ ☆「持続性」	●課題（問題）解決 ●価値判断 ●意思決定 など	which? What might? What decision? What do I think? What shall I do?	→	公民的資質の育成

第6図　地理的事象，地理的概念，思考などの関係からみる地理的見方・考え方を育成する学習展開モデル－「学習の方法的側面」に機能する地理的概念－（筆者作成）



第7図　「学習の内容的側面」と「学習の方法的側面」に機能する地理的概念からみる地理的見方・考え方，地理的事象，地理的認識などの学習展開上の関係（筆者作成）

による地理教育カリキュラムと授業構成システムの考え方を提案する。その中で「持続性」は両側面に機能する地理的概念として組み込まれる。加えて，「持続性」のエレメント構成の検討も必要である。そこで，地理的概念の説明として有力な五大テーマ（第4表）[15] と地理教育国際憲章（第5表）[16] の記述より検討すると，環境保全，相互作用による社会変化，地域格差の是正，国際協力，人権や様々な地域的アイデンティティの尊重などに向き合う資質の意味が見いだせる。これらから，地理教育カリキュラムにおける「持続性」のエレメント構成を図り，本稿は，次のように提案する（◎は基本目標，○は従属目標）。

◎「持続性」は，地理的な環境や地域の持続可能な社会形成のために関わるものごとすべて。

○自然的・人文的環境の持続可能な社会形成のために関わるものごと。

○様々な地域における共存共生の持続可能な社会形成のために関わるものごと。

○様々な地域における人権や社会集団の主権や

第4表　地理学の五大テーマ（筆者作成）

地理的概念	主な内容
「位置」	絶対的，相対的位置に分けられる。
「場所」	それに意味や特徴を与え，他と区別する目に見え，見えなかったり顕著な自然的・人文的特徴をもち，人間と環境間の単純なものから複雑なものまでの相互作用と相関関係を認識し，解釈する鍵を提供する。
「場所内の人間と環境との関係」	自然環境への適応や改変のような人間と環境の関係の発展とその結果や影響，環境保護に対する態度や行動を促す基盤を提供する。
「移動－地表における人々の相互作用」	相互依存と場所間の交流となり，目に見える現象には輸送・通信網がある。空間的相互作用は，単純・ミクロなものから複雑なものまで輸送・通信技術の変化に伴って変化し続ける。この変化に先手を打ち，社会的結果を検討する。
「地域－その成り立ちと変化」	地理学習の基本的単位となり，一指標による区別と多くの複雑な指標の相互作用によって区別される。また発生する事件の学習にもその背景を提供し，場所の統合されたシステムとみると，体系としての理解を容易にする。

表中波線部は，「持続性」に関わるエレメントを構成するための価値・態度・行動に関わる意味の抽出部。

第5表　地理教育国際憲章における地理学の中心概念（筆者作成）

地理的概念	主な内容
「位置と分布」	絶対的相対的位置は財と人間と情報の流れで結ばれ，分布とパターンを説明。人間と場所の位置の知識は各地域の相互依存関係を理解する前提条件。
「場所」	自然的人文的にも多様な特徴を示し，自然的特徴の知識と人々の環境への関心や行為は人間と場所の相互依存関係の理解の基礎。
「人間と自然環境との相互依存関係」	人間は自然環境を多様に利用し働きかけ，文化景観を創り出すが，影響を受け景観を変える。その理解は環境計画や環境管理・保護に重要。
「空間的相互依存作用」	資源は不均等に分布し場所は資源や情報を交換するために運輸・通信システムにより結合。この理解は地域格差是正，国際協力に重要。
「地域」	固有要素に特徴付けられた空間的広がりをもつ区域。変貌する環境の基礎単位。地域の統合的システムは体系の概念へと導き，地球システムの中の異なる地域の構造と発展過程の理解は人々の地域的，国家的アイデンティティ及び国際的立場を明らかにするための基礎。

表中波線部は「持続性」に関わるエレメントを構成するための価値・態度・行動に関わる意味の抽出部。

アイデンティティの尊重の持続可能な社会形成のために関わるものごと。

最後に，このような「持続性」のエレメント構成を組み入れた具体的な単元開発や実践の充実が課題となるが，地域や生徒の実態に応じた，教師のより主体的で創造的な取り組みも不可欠である。

注および文献

1）http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1377051.htm.

2）先行研究に次の成果があげられる。吉田剛（2009）：中学校学習指導要領社会における地理的見方・考え方の潮流．宮城教育大学紀要43巻，pp.43-59．吉田剛（2011）：社会科地理的分野における地理的見方・考え方と地理的技能の枠組み－内容知と方法知の視点から－．新地理，第59巻2号，pp.13-32．吉田剛（2012）：地理的基本概念からみる地理カリキュラムにおける2つの類型－香港・英国・米国・シンガポール・我が国の比較－．宮城教育大学紀要，第47巻，pp.71-83．吉田剛（2013）：香港中学校地理カリキュラムにおける地理的基本概念の機能．地理教育研究，第13号，pp.17-26．吉田剛（2014）：東アジアの華人系地理カリキュラムの分析―中国と香港の比較―．『日本地理学会大会発表要旨集No.85』，日本地理学会2014，p.233．

3）吉田剛（2016）：中学校学習指導要領社会科地理カリキュラムにみる学習の内容的側面と方法的側面に機能する地理的概念．山口幸男・山本實ほか編『地理教育研究の新展開』，古今書院，pp.24-33．

4）吉田剛・菅野友佳（2016）：オーストラリアにおける「ニューサウスウェールズ州」および「連邦」地理カリキュラムの地理的概念の機能に関する比較研究―コンピテンシー・ベースによる地理カリキュラムからの示唆―．社会系教科教育学研究（社会系教科教育学会），第28号（印刷中）．

5）前掲1）．

6）http://www.igu-cge.org.（2016年3月14日 確認）．

7）Geography Education Standards Project (ed.) (1994): *Geography for life: National Geography Standards 1994*, National Geographic Society, Washington, 272p.

8）Qualifications and Curriculum Authority (2007): *Geography; Program of study for key stage 3 and attainment target* pp.101-109. (http://www.qca.org.uk/curriculum)（2011年6月1日確認）．

9）http://www.acara.edu.au/default.asp（2014年5月1日確認）．

10）The Curriculum Development Council Recommended for Use in Schools by The Education Bureau HKSAR (2010): *Geography Curriculum Guide (Secondary1-3)*, pp.1-167. (http://www.edb.gov.hk)（2011年6月1日確認）．

11）Curriculum Planning and Development Division Ministry of Education (2006): *GEOGRAPHY SYLLABUS Lower Secondary*, pp.1-44. (http://www.moe.gov.sg)（2016年3月14日確認）．

12）「地理課程標準（2011年版）中華人民共和国教育部制定」(http://www.pop.com.cn)（2014年1月25日確認）．

13）文部科学省（2008）：『中学校学習指導要領解説―社会編―』，日本文教出版，161p.

14）台湾小中社会科地理的内容の分析は次のサイト内容による。「國民中小學九年一貫課程綱要社會學習領域」(http://www.near.edu.tw/ezfiles/0/1000/attach/73/pta_1567_6558118_17125.doc)（2016年10月25日確認）．

15）中山修一（1991）：『地理にめざめたアメリカ―全米地理教育復興運動―』，古今書院，131p.

16）前掲6）．

付記

本稿は平成28年度科学研究費補助金（基盤研究(C)一般）（課題番号26381171）による成果の一部である。